

上平中学校校舎等配置計画(案)

令和7年9月
上尾市教育委員会

I. 基本的な考え方について	
1. 上尾市の計画方針	1
2. 計画の方向性	1
3. 施設整備のキーワード	2
II. 現状と課題	
1. 現状	3～4
2. 課題	5
3. 課題解決にむけて	6
III. 検討過程	
1. 学校運営協議会	7
2. アンケートの実施	7
IV. 配置計画	
1. 配置の特徴	8
2. 配置計画	8～9
3. 配置計画検討資料	10～13
V. 三回目アンケート回答概要	
1. アンケート回答概要	14～15
VI. 比較検討表	
1. 比較検討表	16～17
VII. 事業スケジュール	
1. 整備スケジュール	18

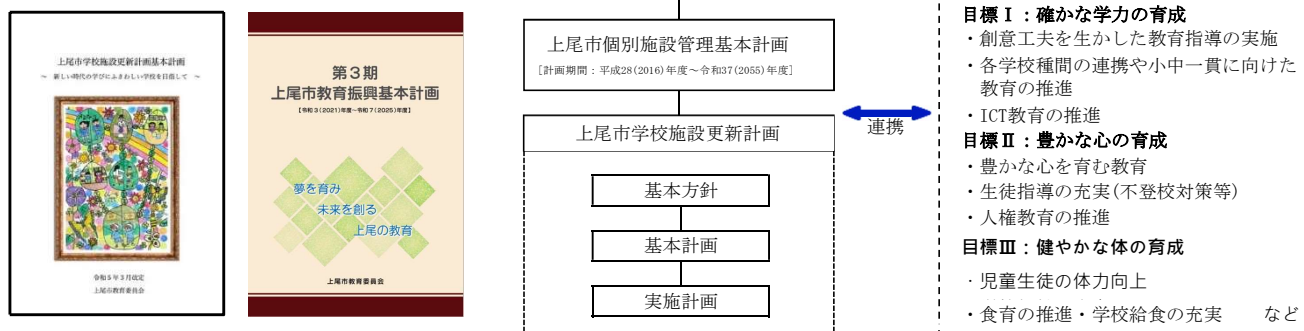
I . 基本的な考え方について

1. 上尾市の計画方針

上尾市では上尾市教育振興基本計画を定めており、『夢を育み、未来を創る、上尾の教育』を基本理念に上尾市学校施設更新計画基本計画を策定しております。

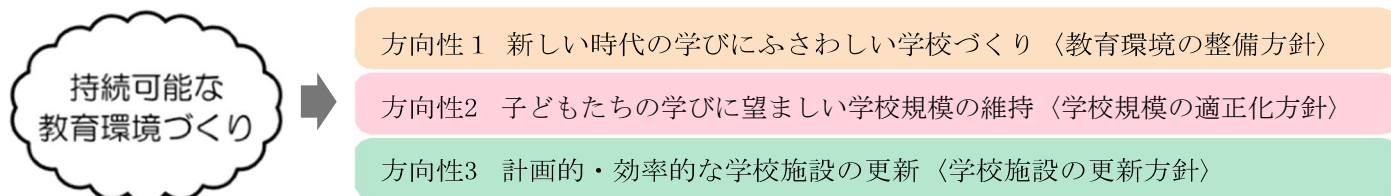
上尾市教育振興基本計画では、ソフト面とハード面の目標を掲げ教育行政を推進するとともに、この目標と連携する形で上尾市学校施設更新計画を定め、市を挙げて老朽化の進む学校施設の更新を進めているところでございます。

- ソフト面：教育内容の充実、いじめ対策、家庭や地域との連携強化 など
- ハード面：学校施設の整備、ICT環境の整備 快適な学習環境づくり など



2. 計画の方向性

学校施設更新計画では「持続可能な教育環境づくり」の実現を図るために3つの方向性を掲げております。



I . 基本的な考え方について

3. 施設整備のキーワード

配置計画の際には、どの計画もこの4つのキーワードを軸に検討をおこなっております。

安全・安心な学校

①学校施設の更新による安全・安心な教育環境の確保

取組

- ・建物を支える柱などの劣化状況調査



②避難所としての学校施設の活用

取組

- ・セキュリティの確保
- ・動線計画、ゾーニングの検討

災害時、学校施設を
地域住民に開放



安全・安心な教育環境、
地域コミュニティの拠点（イメージ）



地域の避難所としての防災機能の強化
（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

新しい学びに対応した学校

①新しい学びに対応した教育環境・設備を備えた学校への改築

取組

- ・変化に対応する柔軟性・可変性のある施設整備
- ・多様な学習活動を展開できる教室空間を検討
- ・設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開、教室環境の充実
- ・教職員の働き方改革を推進し、校務等の能率を最大化するための執務空間を検討
- ・インクルーシブ教育システムの構築



多様な学習活動を展開できる教室空間（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

地域に開かれた学校

①学校と地域が連携・協働していくための空間整備

取組

- ・明瞭なゾーニングや、死角を作らない空間配置など、防犯の視点から検討

地域コミュニティの拠点
として開放

②地域コミュニティ拠点となる施設の複合化

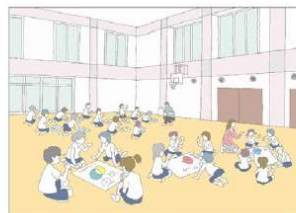
取組

- ・防犯対策や配置計画、空間構成に配慮し検討

公民館や図書館などの
社会教育施設との
複合化や共有化



木材を利用し温かみのあるリビング空間
（イメージ）



多様な活動ができる空調設備のある体育館
（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

快適な学校

①空調設備の充実や脱炭素社会の実現に向けた環境整備

取組

- ・空調設備の充実
- ・省エネルギーや再生可能エネルギーの導入

②学校を利用する全ての人に配慮した環境整備

取組

- ・ユニバーサルデザインの採用
- ・バリアフリー化

利用者全てに優しい
学校施設



太陽光発電設備を導入し環境教育に活用
（イメージ）



学校施設の木質化
（イメージ）

出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告

(1) 既存校舎の概要

※構造欄の「RC」は鉄筋コンクリート造、
「SRC」は鉄骨鉄筋コンクリート造、
「S」は鉄骨造を表す。
※着色部分(桃色)は建築年数40年以上の建物を示す。

【上平中学校】建物基本情報				
建物名	構造	延床面積 (㎡)	建築年	築年数 (年)
北校舎西	RC	687	S40(1965)	60
北校舎東	RC	1,398	S48(1973)	52
管理・南校舎東	RC	3,493	S52(1977)	48
南校舎西	RC	1,122	S56(1981)	44
体育館	SRC+S	762	S44(1969)	56
格技場	S	436	H2(1990)	35
給食室	RC	143	S52(1977)	48

市道 3.6m

プール付 居室 B1-71
プール 18

教室棟 9 R2-687

配膳室 39 S3-58
普通特別教室棟 16 R3-1340

屋内運動場 12 R2-762

物置 34 S1-17

WC 24 S1-29

油庫 30 B1-9

給食室 35 S1-50

アトリエ 29 S1-3

格技場 33 S1-436

教室棟 22-1 R4-1046 (1・2・3・4F)

給食室 21-3 R1-8
21-2 R1-93
管理・普通・特別教室棟 21-1 R5-3485

アトリエ 23 B1-5

22-2 R4-76 (4F)

建物敷地 保有 9632 m²

407人

社会体育

市道 3.0m

体育舎 37 S1-35

部室 14 B1-59

運動場用地 保有 8920 m²

市道 3.6m

市道 2.0m

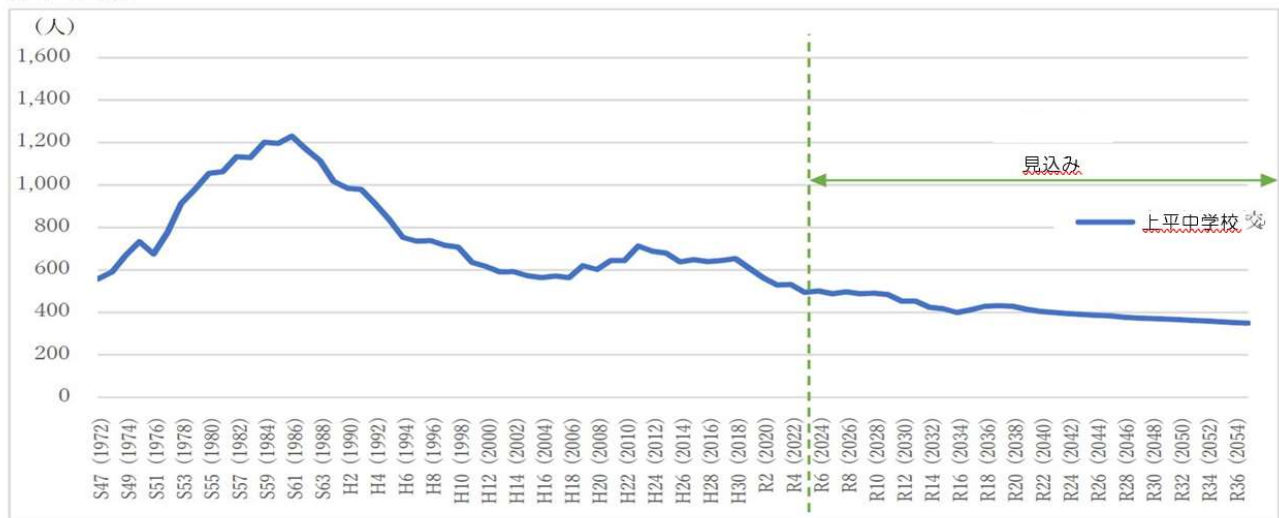
Ⅱ. 現状と課題

(3) 人口

上尾市では児童生徒数が減少しており、高位、長期ビジョン、実態全てで、右肩下がりとなる推計となっております。上平中学校の生徒数は、昭和61（1986）年をピークに平成23（2011）年頃から減少傾向となっており、令和37（2055）年頃には400人程度と見込まれ、およそ1学年4学級、全体で12学級になることが想定されます。



○中学校



図表 2-14 上平地区 生徒数推移と見込み（1972～2055年）

Ⅱ. 現状と課題

2. 課題

(1) 第二グラウンドと既存校舎の距離

上平中学校は正門から約250m離れた場所に第二グラウンド(12781㎡)がありますが、通常の授業では、移動時間(5分)、体育着への着替え時間(3分)、水分補給時間兼生徒の休憩時間(3分)、トイレへ行く時間(4分)が休み時間の10分に収まらず、授業時間の確保が出来ない他、また移動時の安全確保の負担も生じてしまうため、第二グラウンドを利用していません。学校行事や部活動のときに第二グラウンドを利用していますが、校舎から資機材を移動する必要があるため、生徒や教員に掛かる負担が大きい状況です。また、公道での移動も距離があるため、安全確保の負担も生じています。



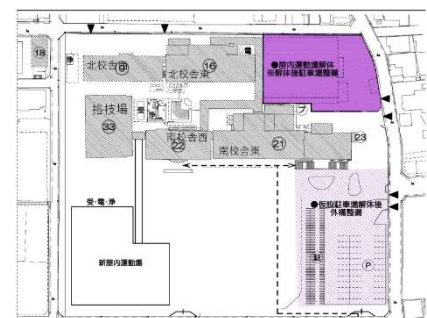
(2) 建設工事期間中の運動場用地の不足

学校用地面積が狭く、施設老朽化による建替え時には既存校庭に新施設を建設することになるため、建設期間中は既存運動場用地が使えません。また新体育館が完成後は既存運動場用地が今より狭くなり、授業で使える運動場用地の広さにはなりません。



①既存建物の配置と校庭の関係

建替え



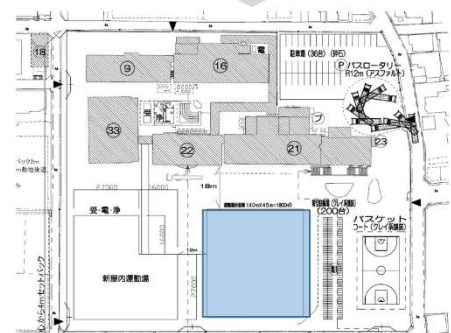
③既存体育館解体時配置イメージと校庭の関係

建替え



②体育館建替え時の配置イメージと校庭の関係(1年半程度)

解体完了



④既存体育館解体完了時配置イメージと校庭の関係

上図④時にはグラウンド面積が約1800㎡程度(上図青枠内)になり、中学校設置基準にある運動場面積を満たさなくなり、授業で使える運動場用地の広さにはなりません。

Ⅱ. 現状と課題

3. 課題解決に向けて

これまでにあげられた課題の解決に向け、上平中学校南側敷地の取得を踏まえ、配置計画を検討しました。

なお第二グラウンドは建替え工事完了後には上平中学校学校用地としては使用しません。



Ⅲ．検討過程

1．学校運営協議会

配置計画の作成にあたり、上平中学校学校運営協議会委員の皆様と意見交換をさせていただきました。

以下に、上平中学校学校運営協議会での説明、意見交換スケジュールを示します。

開催スケジュール及び各回でいただいた主な意見

■一回目（令和7年2月13日）

頂いた主な意見

- ・体育館の配置を既存校舎敷地グラウンドの中で、西側と東側両方で検討してほしい。
- ・これからの気候変動を鑑みるに体育館の広さはしっかりと確保し、子供が屋内で活動するスペースを多く取れるようにしてほしい。

■二回目（令和7年4月24日）

頂いた主な意見

- ・地域開放や防災拠点としての活用も配慮すること。また、風や砂埃が近隣住民に影響が及ばないよう配慮すること。
- ・テニスコートは一般的には4面あるところが多いので上平中学校にも同じように整備してほしい。
- ・A～D案で配置を決定する際には教員の意見を聞くこと。体育教員にとってはグラウンドも教室であるので体育の授業に適した広さ・形状とし、使いやすいように整備(水はけのよさ等)すること。

2．アンケートの実施

生徒、学校関係者、地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただく目的で、アンケートを3回実施いたしました。

(1) 1回目アンケート

【対象】生徒、教職員、学校運営協議会委員、避難所運営班

【期間】令和6年9月26日～10月8日

【内容】今の学校で機能改善を要する点について、校舎を建替える際に必要だと思う機能について

(2) 2回目アンケート

【対象】生徒、教職員

【期間】令和7年5月12日～5月30日

【内容】生徒：学校の好きな場所、新しい学校にあったらいいなと思うもの、新しい学校はどんな学校がよいかについて

教職員：各内部諸室の整備のポイントについて

(3) 3回目アンケート

【対象】教職員、生徒保護者、学校運営協議会委員、避難所運営班、開放委員会、上平地区自治会長、上平中学校周辺にお住まいの方

【期間】令和7年8月4日～8月28日

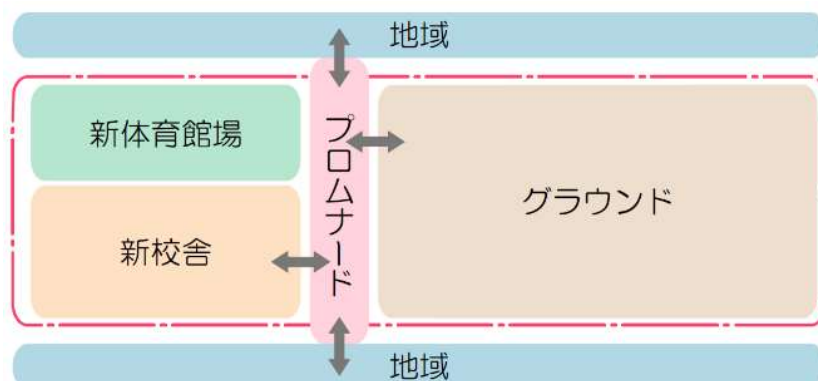
【内容】配置計画案の良い点、悪い点について

Ⅳ．配置計画

1. 配置の特徴

上平中学校では『「学び」と「地域」をつなぐプロムナード』を特徴とした配置計画を行っています。

プロムナード（散歩道）によって緩やかに学校と地域を結びます。



2. 配置計画

(1) 建物配置案の整理

学校敷地内における校舎や運動場の配置について、4つの配置案を想定し、比較検討を行いました。（次ページ参照）

4つの配置案（A案、B案、C案、D案）の特徴を整理し、検討に際しては大きく分けて「配置」、「環境」、「防災」、「施工及び工事中的環境、工事の効率性」の4分類について、23の項目について比較しながらメリット・デメリットを含めて検討を行いました。

IV . 配置計画

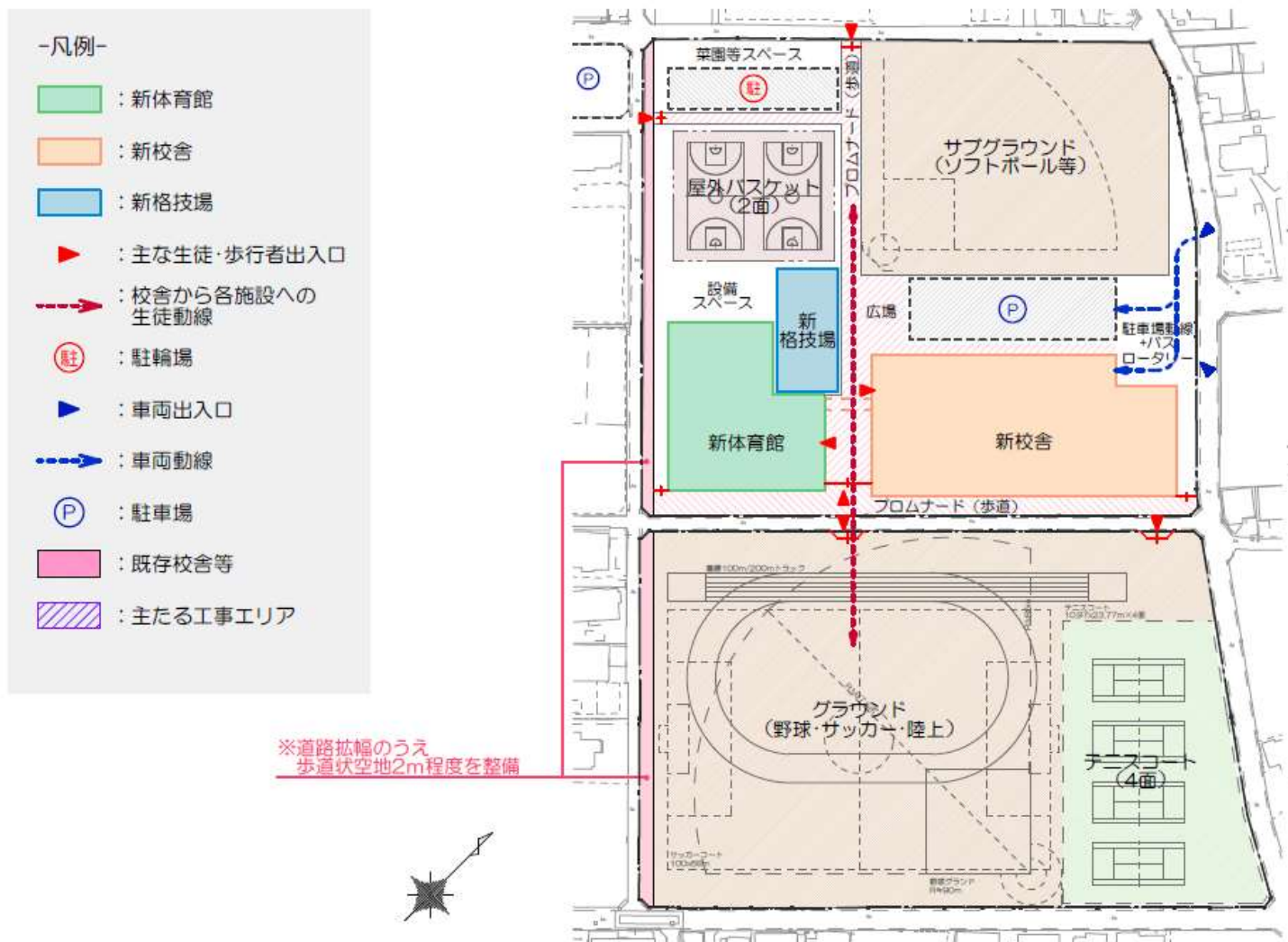
(2) 新校舎の配置計画

今回の計画にふさわしい配置案として、最終的に A 案を選定しました。

新校舎の配置は、既存グラウンドにまとまった形で配置することで、生徒が校内を合理的・一体的に使用できる計画とします。運動場（グラウンド）は、日当たりが良く、地域利用もしやすい配置とします。

配置検討（A案）

■配置計画の完成イメージ



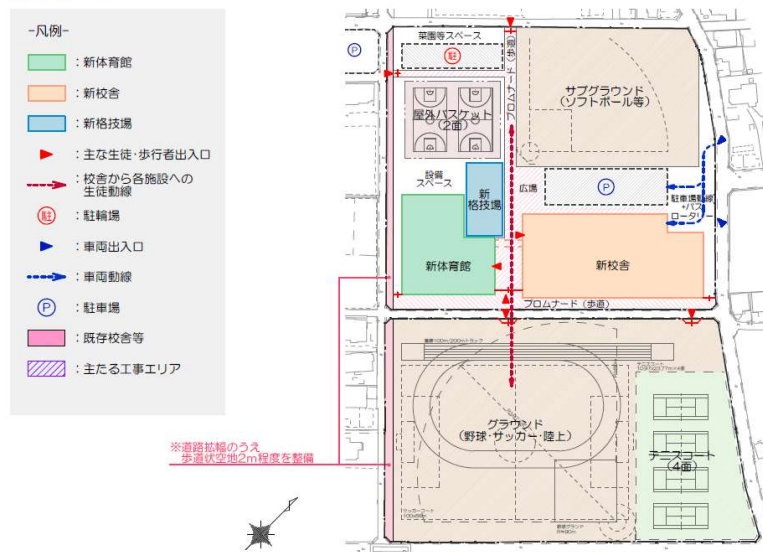
IV . 配置計画

3. 配置検討資料

(1) A案

配置検討 (A案)

■配置計画の完成イメージ

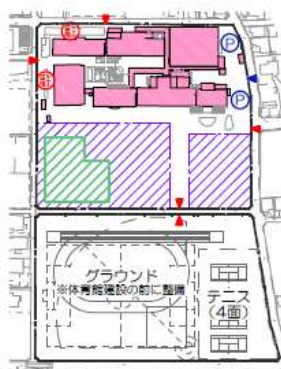


■工事ステップの概要 (予定)

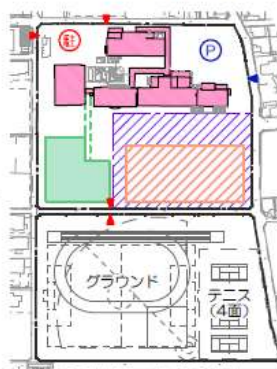
①現況



②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

- ・校舎が東西に長い配置のため、全体的に日当たりがよい。
- ・校舎と体育館が同一敷地にあり、隣接するため行き来しやすい。
- ・敷地全体の中心に校舎があり各施設へのアクセスが容易。
- ・校舎北側に十分な駐車場を確保できる。
- ・グラウンドの工事回数が1回で済む。
- ・テニスコートを4面整備できる。

<懸念点>

- ・グラウンドが2つできるが校舎により分断される。
野球とサッカーの試合を同時に開催することができない。
- ・新校舎を建設する時に既存校舎からグラウンドへの経路が狭あいになる。

■3回目アンケートより多かったご意見

A 案良い点：日当たりが良い。校舎と体育館のアクセスが良い。

テニスコートが4面、屋外バスケットコートが2面ある。

A 案懸念点：サッカーと野球が同時にできない。

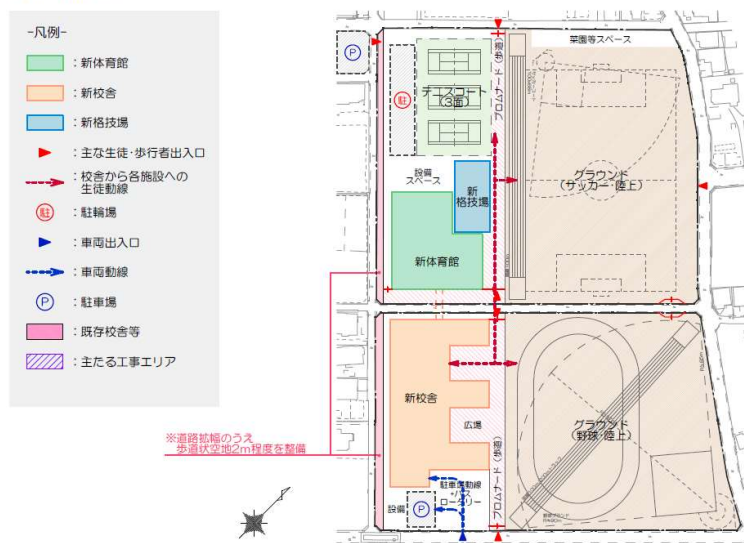
2つのグラウンドが分断されている。

IV . 配置計画

(2) B案

配置検討 (B案)

■配置計画の完成イメージ

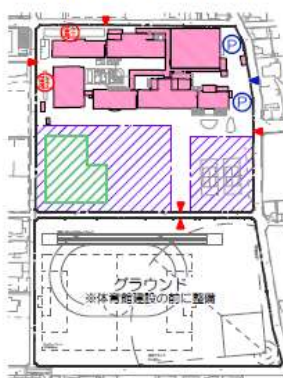


■工事ステップの概要 (予定)

①現況



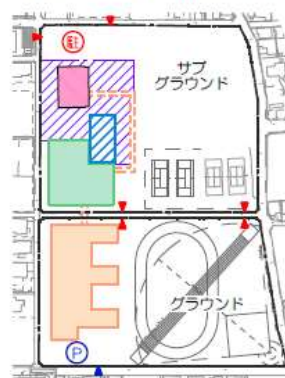
②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

- 南北に連続したグラウンドを確保でき、サッカーと野球の試合が同時に開催できる。
- 将来的に校舎東側へ連続するかたちで増築・拡張が可能。

<懸念点>

- 校舎棟から北側施設へのアクセスに距離が生じる。
- 教室が西側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。
- 格技場完成までに3回に渡ってグラウンド整備する必要があり、生徒が十分な広さのグラウンドを使えない期間がある。

■ 3回目アンケートより多かったご意見

B 案良い点：グラウンドが広い。サッカーと野球が同時にできる。

B 案懸念点：日当たりが悪い。校舎と体育館が道で分断されている。

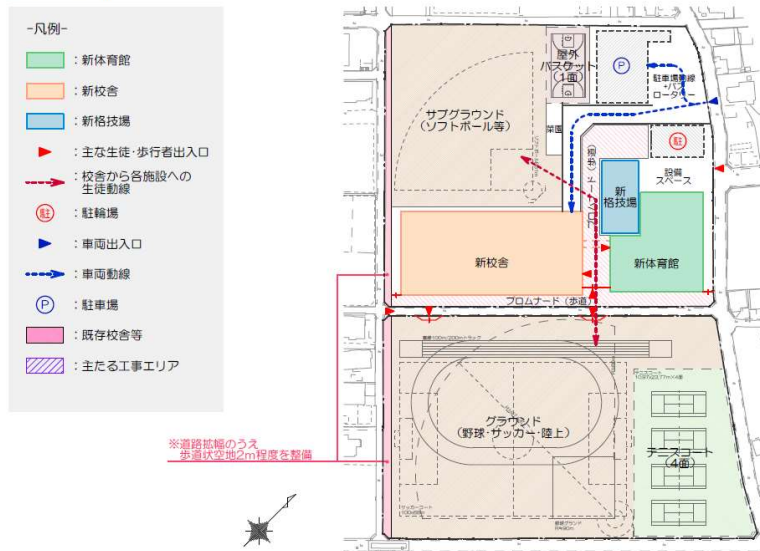
テニスコートが3面しかない。

IV . 配置計画

(3) C案

配置検討 (C案)

■配置計画の完成イメージ

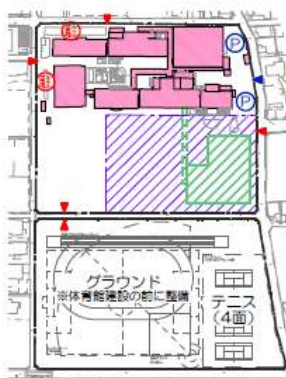


■工事ステップの概要 (予定)

①現況



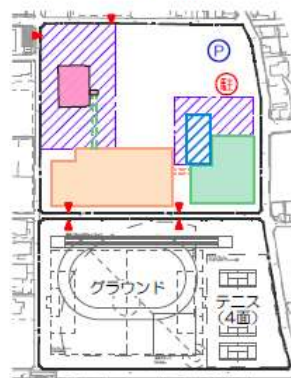
②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

- 校舎が東西に長い配置のため、全体的に日当たりがよい。
- 校舎と体育館が同一敷地にあり、隣接するため、行き来しやすい。
- 敷地全体の中心に校舎があり各施設へのアクセスが容易。
- 校舎北側に十分な駐車場を確保できる。
- テニスコートを4面整備できる。

<懸念点>

- 敷地内で給食車両と生徒の動線が交わる。
- 校舎により、グラウンドが南北で分断される。
- 野球とサッカーの試合を同時に開催することができない。
- 敷地内に駐車場は設けられるが、接道条件により校舎から離れた位置となる。車いす駐車場から校舎まで距離がある。
- 新校舎を建設する時に既存校舎からグラウンドへの経路が狭あいになる。

■3回目アンケートより多かったご意見

C案良い点：日当たりが良い。校舎と体育館の行き来がしやすい。

テニスコートが4面ある。

C案懸念点：サッカーと野球が同時にできない。グラウンドが分断されている。

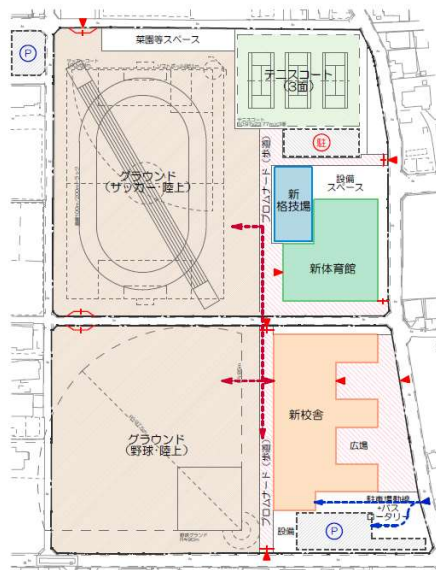
生徒動線と給食車両の動線が同じである。

IV . 配置計画

(4) D案

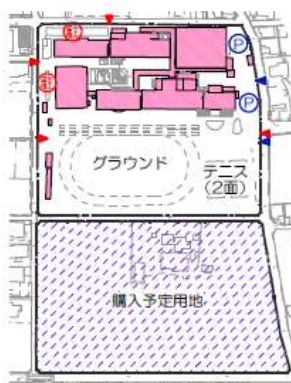
配置検討 (D案)

■配置計画の完成イメージ

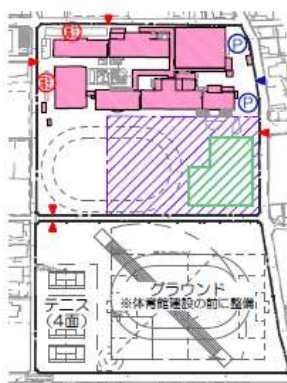


■工事ステップの概要 (予定)

①現況



②体育館建設時 (令和9年頃)



③校舎建設時 (令和28年頃)



④格技場建設時 (令和31年頃)



■計画の特徴

<良い点>

- ・南北に連続したグラウンドを確保でき、サッカーと野球の試合が同時に可能。
- ・将来的に校舎西側へ連続するかたちで増築・拡張が可能。

<懸念点>

- ・新校舎建設から既存格技場を解体するまでの間、グラウンド面積を十分に確保できないため、野球及びサッカーの試合は実施できない。(想定工期5年間程度)
- ・既存校舎解体から新格技場が完成するまでの長期間、既存格技場までの動線距離が長くなる。(想定工期2年半程度)
- ・校舎棟から北側施設へのアクセスに距離が生じる。
- ・教室が東側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。

■ 3回目アンケートより多かったご意見

D案良い点：グラウンドが広い。サッカーと野球が同時にできる。

D案懸念点：野球とサッカーの試合が長期間できない。

テニスコートが3面しかない。

V. 3 回目アンケート回答概要

アンケートの概要

1. 調査目的

上平中学校校舎等更新設計における、配置計画案（4 案）について各案のメリット、デメリットを把握するために
アンケート調査を実施する。

2. 対象者及び回答方法

	対象者数	回答数	回答率	回答方法
上平中学校に勤務する教職員 (校長 1・教頭 1・教諭 26・養護教諭 1、事務職員他 2)	31	31	100.00%	Google フォーム
上平中学校に在籍する生徒の保護者	441	104	23.58%	Google フォーム
上平中学校学校運営協議会の方（教員を除く）	8	6	75.00%	紙または Google フォーム
上平中学校避難所運営班の方 (教員を除く避難所運営会議出席者：自主防災会 3)	3	2	66.67%	紙または Google フォーム
上平中学校学校開放委員会の方（教員を除く）	10	3	30.00%	紙または Google フォーム
上平中学校敷地から 100m 以内に居住する方	125	40	32.00%	紙または Google フォーム
上平地区自治会長	21	15	71.43%	紙または Google フォーム
合計	639	201	31.46%	

3. 調査期間

令和 7 年 8 月 4 日（月）から 8 月 28 日
（水）

4. 設問

A 案～D 案についてそれぞれ良いところと懸念点を自由記述にて記載

V. 3回目アンケート回答概要

回答概要

1. 各案の分析結果（良い点）

分類	回答数			
	A 案	B 案	C 案	D 案
日当たりが良い	29	4	23	3
屋外施設機能が充実している	33	65	26	45
動線が良い	67	15	61	9
工事期間が短い/効率が良い	17	0	5	1
その他	55	35	43	42
合計	201	119	158	100

2. 各案の分析結果（懸念点）

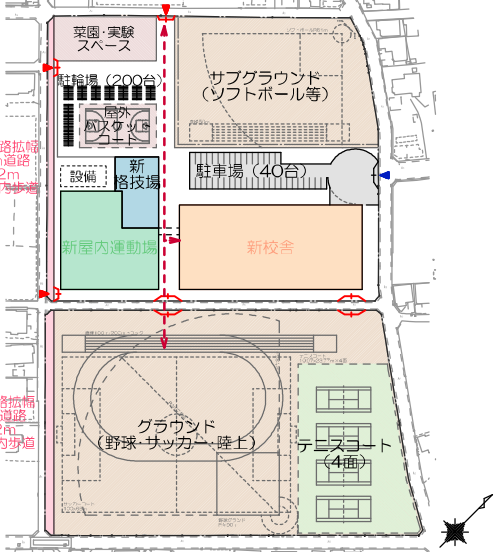
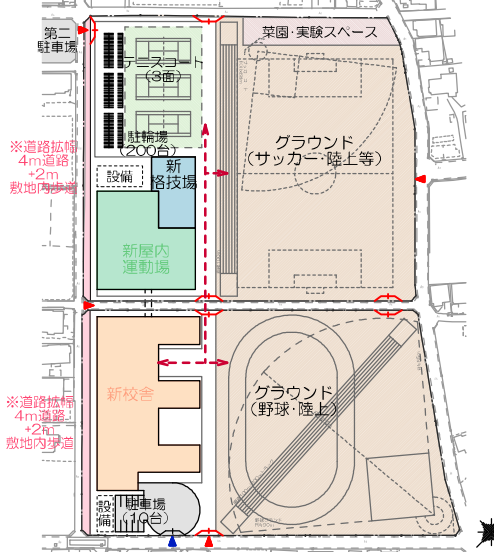
分類	回答数			
	A 案	B 案	C 案	D 案
日当たりが悪い	6	23	4	11
屋外施設機能に懸念がある	50	22	21	37
動線に懸念がある	30	45	43	42
工事期間が長い/効率的ではない	3	15	3	25
その他	49	77	50	56
合計	138	182	121	171

3. 各案ごとの良い点と懸念点の割合

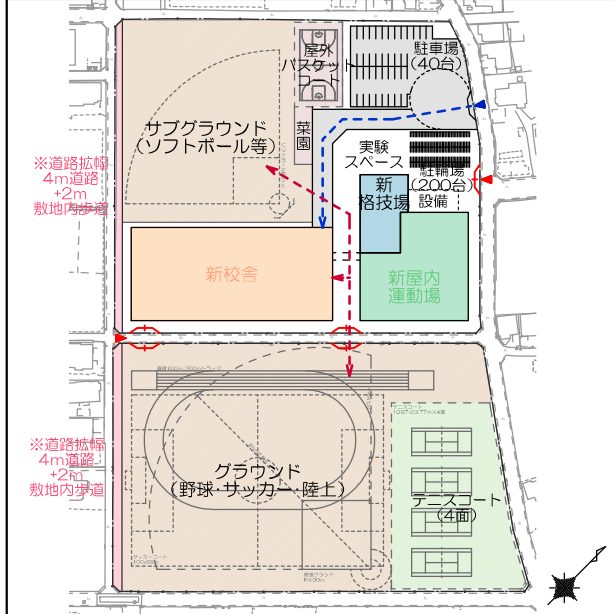
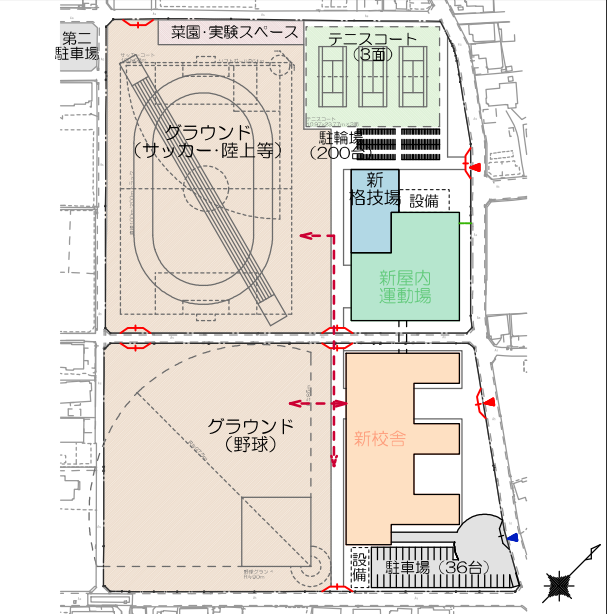
	良い点		懸念点	
	数	割合	数	割合
A 案	201	59%	138	41%
B 案	119	40%	182	60%
C 案	158	57%	121	43%
D 案	100	37%	171	63%

VI. 比較検討表

配置比較検討

		A案（新屋内運動場・西側配置 新校舎・既存敷地南側配置）				B案（新屋内運動場・西側配置 新校舎・新敷地西側配置）			
配置計画のイメージ	凡例								
	：新屋内運動場 ：新校舎 ：新格技場 ：生徒出入口 ：生徒動線 ：車両出入口 ：車両動線								
評価分類	評価項目	評価	重要度	評価理由		評価	重要度	評価理由	
配置 （更新事業完了時）	建物の配置	屋内運動場の配置	◎	A	校舎棟と同一敷地内にあり、隣り合う配置のため行き来しやすい。	○	A	校舎棟と隣り合う配置ではあるが、別敷地のため往來の安全性・利便性を考慮するとブリッジが必要。加えて2階での接続となるため、屋内運動場にEVの設置が必要。	
		校舎の配置 （教室の環境）	◎	A	東西方向に伸びた配置で教室は南向きとなる。日当りのよさに加え、夏期の高度が高い日射は庇等によりコントロールが容易である。	○	A	南北方向に伸びた配置のため、教室への採光を確保できるように楕円形状とするが、A・C案に比べると採光を確保できる時間は短い。建物の幅が縦横にともに伸びるため、グラウンドの大きさに影響を与える可能性がある。	
		地域開放エリアの明確性	◎	B	地域開放の核となる屋内運動場は敷地全体の中央に位置し各施設・グラウンドへのアクセスが明快かつ容易である。	◎	B	地域開放の核となる屋内運動場は敷地全体の中央に位置し各施設・グラウンドへのアクセスが明快かつ容易である。	
	駐車場の配置		◎	B	校舎付近に普段利用の駐車台数が確保できる。	△	B	校舎付近に普段利用の駐車場は確保できるが、全台数は配置できないため、プール跡地に不足分を設ける必要がある。	
	動線	生徒の利用動線	○	B	敷地全体の中心に校舎があり、各施設へのアクセスが容易。	△	B	校舎から北側施設へのアクセスは距離が生じる。	
		歩行者と車両動線の関係	◎	A	敷地内で給食及び来校者等車両と生徒の動線は交わらない。	◎	A	敷地内で給食及び来校者等車両と生徒の動線は交わらない。	
	グラウンドの使い勝手	グラウンドの面積	○	A	合計で約25,000㎡確保できる。	◎	A	合計で約30,000㎡確保できる。	
		グラウンドの連続性と弾力的な利用	△	A	校舎によりグラウンドが南北で分断される。	◎	A	南北方向に連続してグラウンドが確保でき、弾力的な利用が見込める。	
		サッカー・野球	○	B	試合を行う場合、どちらか一方の球技の利用となる。	◎	B	どちらの球技も同時に試合が可能。	
		テニスコート	◎	B	コートは4面整備できる。	○	B	コートは3面整備できる。	
		その他のスポーツ	○	B	北側グラウンド廻りでソフトボールや屋外バスケットができる。	△	B	ソフトボール等を行う場合は他スポーツとの併用が必要。	
	校舎の拡張性（※将来対応性）		△	B	校舎を拡張する場合、北側への増築により対応できるが別棟となり、駐車場の再整備を要する。	◎	B	校舎東側へ連続するかたちで増築・拡張が可能。	
環境 （更新事業完了時）	周辺への影響	校舎等による日影	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。	
		教室からの騒音 （音楽室等）	○	A	音楽室等は敷地の中央付近に配置が可能なので、周辺住宅と距離を確保することができる。	△	A	教室棟は西側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。	
防災 （屋内運動場完成時）	地域防災力の向上	◎	A	屋内運動場に、防災拠点（普段利用は地域交流室）と防災倉庫を整備する。	◎	A	屋内運動場に、防災拠点（普段利用は地域交流室）と防災倉庫を整備する。		
施工及び 工事中的環境、 工事の効率性	工事中的環境	学校機能の維持	◎	A	各機能を継続して使いながら改築工事ができる。	◎	A	各機能を継続して使いながら改築工事ができる。	
		生徒の利用動線 （仮設動線）	△	B	新校舎建設時、既存校舎からグラウンドへまでの経路が狭あいになる。（想定工期1年半程度）	○	B	特に支障はない。	
	建替プロセスの効率性	テニスコート整備後の変更回数	◎	B	0回	○	B	1回	
		グラウンド整備後の変更回数	◎	B	0回	△	B	2回 + 1回（小規模 駐車場スペース→グラウンド化）	
		仮設駐車場の整備回数	○	B	2回	○	B	2回	
		仮設駐輪場の整備回数	○	B	2回	◎	B	1回	
		格技場への仮設渡り廊下の設置長さ及び盛替回数	○	B	L約45m（1回目）、L約60m（2回目）	△	B	L約45m（1回目）、L約90m（2回目）	
		既存校舎改修の必要性	△	B	あり（屋内運動場建設時に部室等の先行解体が必要）	△	B	あり（屋内運動場建設時に部室等の先行解体が必要）	
総 評		建物配置の妥当性と施工の効率性に優れた計画である。 [◎が10、○が9、△が4]				敷地をフル活用した大きなグラウンドが特徴の計画である。 [◎が9、○が7、△が7]			

※評価は「◎=とてもよい」「○=問題ない」「△=懸念点がある」「課題がある」とし、加えて重要度の係数「A=重要」「B=普通」を考慮した。

C案（新屋内運動場-東側配置 新校舎-既存敷地南側配置）			D案（新屋内運動場-東側配置 新校舎-既存敷地東側配置）		
 ※道路拡幅 4m道路 +2m 敷地内歩道 ※道路拡幅 4m道路 +2m 敷地内歩道					
評価	重要度	評価理由	評価	重要度	評価理由
◎	A	校舎棟と同一敷地内にあり、隣り合う配置のため行き来しやすい。	○	A	校舎棟と隣り合う配置ではあるが、別敷地のため往來の安全性・利便性を考慮するとブリッジが必要。加えて2階での接続となるため、屋内運動場にEVの設置が必要。
◎	A	東西方向に伸びた配置で教室は南向きとなる。日当りのよさに加え、夏期の高度が高い日射は庇等によりコントロールが容易である。	○	A	南北方向に伸びた配置のため、教室への採光を確保できるように櫛型形状とするが、A・C案に比べると採光を確保できる時間は短い。建物の幅が縦横にともに伸びるため、グラウンドの大きさに影響を与える可能性がある。
◎	B	地域開放の核となる屋内運動場は敷地全体の中央に位置し各施設・グラウンドへのアクセスが明快かつ容易である。	◎	B	地域開放の核となる屋内運動場は敷地全体の中央に位置し各施設・グラウンドへのアクセスが明快かつ容易である。
△	B	敷地内に駐車場は設けられるが、接道条件により校舎から離れた位置となる。車いす駐車場から校舎まで距離がある。	◎	B	校舎付近に普段利用の駐車台数が確保できる。
○	B	敷地全体の中心に校舎があり、各施設へのアクセスが容易。	△	B	校舎から北側施設へのアクセスは距離が生じる。
×	A	敷地内で給食車両と生徒の動線が交わる。	◎	A	敷地内で給食及び来校者等車両と生徒の動線は交わらない。
○	A	合計で約27,000㎡確保できる。	○	A	合計で約29,000㎡確保できる。
△	A	校舎によりグラウンドが南北で分断される。	◎	A	南北方向に連続してグラウンドが確保でき、弾力的な利用が見込める。
○	B	試合を行う場合、どちらか一方の球技の利用となる。	◎	B	どちらの球技も同時に試合が可能。
◎	B	コートは4面整備できる。	○	B	コートは既存と同じ3面を整備する。
○	B	北側グラウンド回りでソフトボールや屋外バスケができる。	△	B	ソフトボール等を行う場合は他スポーツとの併用が必要。
○	B	校舎を拡張する場合、北側への増築により対応できるが別棟となる。	○	B	校舎を拡張する場合、西側への増築により対応できるが別棟となる。
○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。	○	A	建築基準法に基づく等時間日影の検討では、近隣に影響は生じない。
○	A	音楽室等は敷地の中央付近に配置が可能なので、周辺住宅と距離を確保することができる。	△	A	教室棟は東側の住宅に接近するため、防音サッシを設ける等の対策が必要である。
◎	A	屋内運動場に、防災拠点（普段利用は地域交流室）と防災倉庫を整備する。	◎	A	屋内運動場に、防災拠点（普段利用は地域交流室）と防災倉庫を整備する。
◎	A	各機能を継続して使いながら改築工事ができる。	×	A	校舎建設から既存格技場を解体するまでの間、グラウンド面積を満実に確保できないため、野球及びサッカーの試合は実施できない。（想定工期5年間程度）
△	B	新校舎建設時、既存校舎からグラウンドへまでの経路が狭あいになる。（想定工期1年半程度）	△	B	既存校舎解体から新格技場が完成するまでの長期間、既存格技場までの動線距離が長くなる。（想定工期2年半程度）
◎	B	0回	○	B	1回
○	B	1回+1回（小規模 駐車場スペース→グラウンド化）	×	B	3回
◎	B	1回	○	B	2回
△	B	3回	◎	B	1回
○	B	L約45m（1回目）、L約40m（2回目）	×	B	L約45m（1回目）、L約110m（2回目）
△	B	あり（屋内運動場建設時に渡り廊下接続部の改修が必要）	△	B	あり（屋内運動場建設時に渡り廊下接続部の改修が必要）
建物配置の妥当性と施工の効率性に優れた計画であるが、一部動線計画に懸念がある。[◎が8、○が9、△が5、×が1]			敷地をフル活用した大きなグラウンドが特徴の計画であるが、施工中の懸念事項が多々ある。[◎が7、○が8、△が5、×が3]		

VII. 事業スケジュール

1. 整備スケジュール

新体育館の完成までの流れは次のとおりとなります。

全体設計
R6～7年

- ・拡張用地も含めて配置を計画します。
- ・新体育館以外も含めた理想的な建物配置、建替え手順、建物仕様などを作成します。

個別設計
R8年

- ・全体設計を基に新体育館を建設するための設計図書を作成します。機能性やデザイン性などの観点から、より詳細にまとめます。

工事
R9年～

- ・安全性に配慮した工事を実施します。
- ・生徒動線から離れた工事エリアを設定し生徒の安全を確保します。

※新築工事の期間は現時点での概算であり、今後の詳細検討により前後する場合があります。

上尾市教育委員会

令和 7 年 9 月